

2018年度 久留米信愛中学校・高等学校 学校自己評価表

2018年度、本校は以下のような目標・方針・計画をもとに、教育活動をおこないます。

※評価はA・B・C・Dの4段階で行います。

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

教育目標	カトリック精神を基盤とする教育理念の上に立ち、生徒の全人格的陶冶を目指す。 生徒一人ひとりが主体性を確立し、おのおのの可能性を最大限に開発して、絶えず自分を越えて学ぶ姿勢を生涯持ち続けることのできる自己形成力を養う。 人間社会の多様性を理解し、とりわけ弱い立場に置かれた人を大切にす豊かな心を持ち、社会に秩序と平和をもたらす慈愛、信頼、寛容、感謝、協力の精神を育む。	総合評価
年度目標	1. 共学化初年度にあたり、男女を問わないキリスト教教育の基盤を共有する 2. 自律した学習態度の定着に向けて、生徒指導を強化する 3. 多様性の受容と協働性の養成のための国際理解教育の充実を図る 4. ICT教育の充実に向けて、教員のスキルを向上させる 5. 生徒の未来を拓くための志を高める進路指導を実践する 6. 全教科で「対話的授業」と「課題解決型学習」への取り組みを深化させる 7. 教科指導力と学級経営力を中心として、教員の資質向上を図る 8. 教職員全員が信愛の教育活動について説明でき、広報活動を担う意識を持つ	B

No. 1

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
			中間	年度末	年間
宗教教育	○キリスト教カトリック精神に基づく信愛教育の推進 ○宗教委員会の活性化	朝終礼での祈りや授業前の黙想を通して、美しい姿勢を保つこと、沈黙のうちに自己と向き合うことを習慣化させる。	A	A	B
		日常生活において、「他者のために自分を与える」生き方を意識させるため、典礼歴に応じた啓発運動を活性化させる。	B	B	
生徒指導	○基本的な生活習慣と規範意識の確立 ○主体性と協働性の伸長 ○校内美化の推進	「校訓」「信愛しぐさ」「あすこそは」を意識し、美しい言葉遣い・立ち居振る舞いを行うよう呼びかけ指導する。	B	A	B
		生徒会活動をはじめ、生徒が企画運営する教育活動が、生徒の主体性や統率力、協働性を育む場になるよう、支援的な指導を行う。	B	B	
		清掃監督者と連携を取り、エプロン着用の徹底・無言清掃・丁寧な清掃を呼びかけ指導を行う。	B	A	
教科指導	○自律した学習態度の定着 ○授業の満足度の向上と授業改善 ○業務遂行 ○ICT教育の企画・運営・推進	学びの習慣化のための「ステラ手帳」の活用指導の徹底	A	A	B
		主体的、対話的に学びを深めさせ、課題解決型学習促進に向けた授業づくりのための助言と運営	B	B	
		次期学習指導要領・新テスト制度の情報の共有	B	B	
		ICTを活用した授業支援および校務支援のための環境整備	B	B	
進路指導	○受験指導の徹底 ○教職員の進路指導力の向上 ○キャリア教育の徹底 ○進路実現に向けての+αの学習や校外活動参加の促進 ○生徒・保護者に対する進路情報の積極的提供	2019年度大学入試の情報収集と分析による、高校5・6期生の進路実現のための徹底指導	B	B	B
		受験校決定や教職員間の目線合わせのための「進路指導検討会の開催」、実力テストの問題・結果分析と学習指導の徹底	A	A	
		学内外での活動を活動履歴（プロセス・気づき・振り返り）にまとめる、ポートフォリオ対策	A	A	
		受験に向けて生徒の学習意欲と実力を向上させる効果的な課外や特別講座の企画立案	B	A	
		学年別「きやりあばす」の効率的な発行。学年に応じた最新の進路情報の、生徒・保護者への提供。	A	B	
教育支援 保健衛生・	○教育支援活動の実施	スクールカウンセラーのアドバイスを担任・学年へ繋げる。	A	A	A
		外部機関の啓蒙活動を提示し、相談機関の紹介を実施する。	B	A	
		学校医・スクールカウンセラーによる相談活動を実施する	A	A	
人権・同和教育	○「共に生きる」意識の高揚 ○「自己を他者に生かす」精神の育成	人権学習（人権授業）やHR活動、学校行事を通して、自己について考え正しく理解するとともに、他者の立場や気持ちについて意識を向け、互いに受け入れ、認め合い、協力して行動する姿勢をつくる。	B	A	A
		人権に関するボランティアについて考え、体験することにより、「自己を他者に生かす」心と行動力を育成する。	B	A	
国際教育の推進	○グローバル人材育成のための教科横断型プログラムの企画運営 ○海外難関大学進学を視野に入れた一貫教育の推進	姉妹校を含む各種海外研修の機会をとらえ、各国の事情を踏まえた課題研究の指導計画を検討する。	A	A	A
		英語科と連携し、6カ年を通じて実践的英語学習の動機付けと錬成のための研修を企画する。	A	A	

	○海外留学・海外大学進学への支援	教務部（ICT 教育関連）と連携し、年間を通じ海外姉妹校生徒とのネット等を活用した交流機会を創設・実施し、交流の深化を図る。 「英語圏への早期海外留学プログラム」を推進し、効果を検証する。	B	B	
研究・研修	○授業のクオリティ向上 ○教員の質の向上のための各種研修会の企画と運営	教科指導力向上に向けて授業参観活性化のための企画運営	B	B	B
		新しい価値観に基づいた教育に対応するための研修検討	B	B	
家庭との連携	○後援会役員・評議員との事務連絡・調整 ○保護者との連携強化 ○卒業生の保護者との支援体制の構築	後援会役員・評議員との意見交換を行い、信頼される学校づくりに反映させる。	B	B	B
		「信愛父親の会 Shin-ai Dads' Club」を企画・運営し、父親と学校とのつながりや父親同士のネットワークを構築する。	A	A	
		歴代後援会役員会「百合の会」、卒業生やその保護者の支援を得て、学校の活性化を一層促進する。		B	
同窓会との連携	○卒業生情報の収集と有効な活用 ○同窓会と連携した各種行事への卒業生の参加増の工夫	卒業生による講話などを通して、先輩の活躍を知ること、生徒の進路意識を高める。	B	B	B
		各イベントが、学校からの情報発信だけでなく、卒業生同士のネットワークづくりにつながるものにする。	B	B	

No. 2

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
			中間	年度末	年間
中学1年	○基本的生活習慣と学習習慣を確立する ○自己表現力とコミュニケーション能力を育成する ○共学化一期生としての自覚と誇りを持たせる ○保護者との連携を図る	「すらら」導入により自律学習への構えをつくとともに、基礎力定着のために週テストを活用する。	B	A	A
		新課程入試を見据え、自分の考えを論理的にまとめた的確に発表する場を設け、自己表現力をつける。	B	A	
		信愛の未来を拓く共学化一期生としての自覚と誇りを持たせるよう、学校生活のあらゆる場面で声がけをする。	A	A	
		一人ひとりの生徒を共に育てていく者として、生徒に関する情報を共有し、保護者の思いを理解することを通じて、学校と保護者の関係を強化する。	A	A	
中学2年	○基礎基本の徹底と生活習慣の確立 ○自己表現力とコミュニケーション能力の育成 ○信愛性としての自覚と誇りの養成 ○保護者との連携	ステラ手帳を活用し、起床・就寝・学習開始時間の3点固定を意識させる。	B	B	B
		朝読書を通じて、語彙を豊かにし、自己の考えを的確に表現できるようにする。	A	B	
		黙想や祈りを通じて、カトリック校としての心の教育を行う。	A	B	
		学年便りを毎月発行し、学校の取り組みや生徒の活動の様子を保護者に伝えていく。	A	C	
中学3年	○良好な人間関係の構築 ○基本的生活習慣の確立 ○学習サイクルの確立	生活上のルールを守る規律心を高め、相手を思いやるマナーを大切に育てる。	B	B	B
		「ステラノート」を活用し、起床・就寝・学習開始時刻の3点固定を意識させる。	B	B	
		予習復習の習慣化をはかるべく、計画的・継続的に課題を出し、小テストなどを実施する。	B	B	
高校1年	○生活習慣の確立 ○学習習慣の確立 ○連携・協力の構築	部活動やボランティア・学校行事に積極的に参加させ、学校生活を充実するための、居場所を作らせる。	B	B	B
		教科担当者と情報交換を定期的に行うとともに、学年での授業参観・見回りを行いながら授業への取り組み状況を上げていく。	B	B	
		保護者との連絡を密にとることで、学校生活や家庭での生活状況を把握するとともに、クラス懇談会の出席率を上げ、連携を図る。	A	B	
高校2年	○基本的生活習慣の確立 ○進路実現を意識した学習習慣 ○進路意識の高揚 ○保護者との連携	言語活動を通して他者の理解力と自己表現力を向上させる。	A	A	B
		基礎・基本の徹底とともに、苦手科目の克服、得意科目の伸長を図らせる。	B	B	
		修学旅行・姉妹校交流を通じ、自らの在り方・生き方の視野を広げさせる。	A	B	
		懇談会、講演会などへの出席を促し、学校の教育方針の理解を求める。	B	B	
高校3年	○受験生としての自立した学習の実践 ○受験生らしい生活習慣の確立 ○進路意識の高揚 ○人間力の育成 ○保護者との連携	積極的に自学室を利用したり、隙間時間を活用したりして課題を発見しながら学習に取り組むように促す。	B	A	B
		清々しい挨拶や身だしなみを意識させ、実践させる。	B	B	
		現実を知り、ものの見方や考え方が広がるような進路講演会を設け、将来に関わる情報を意識するように促す。	B	B	
		周りのために自分がどう動くかまた、何ができるかを考えようとする意識を身につけさせる。	B	A	
		「学年だより」や「信愛お知らせメール」で生徒の活動の様子や進路の情報を伝え、保護者の理解を促す。	A	A	